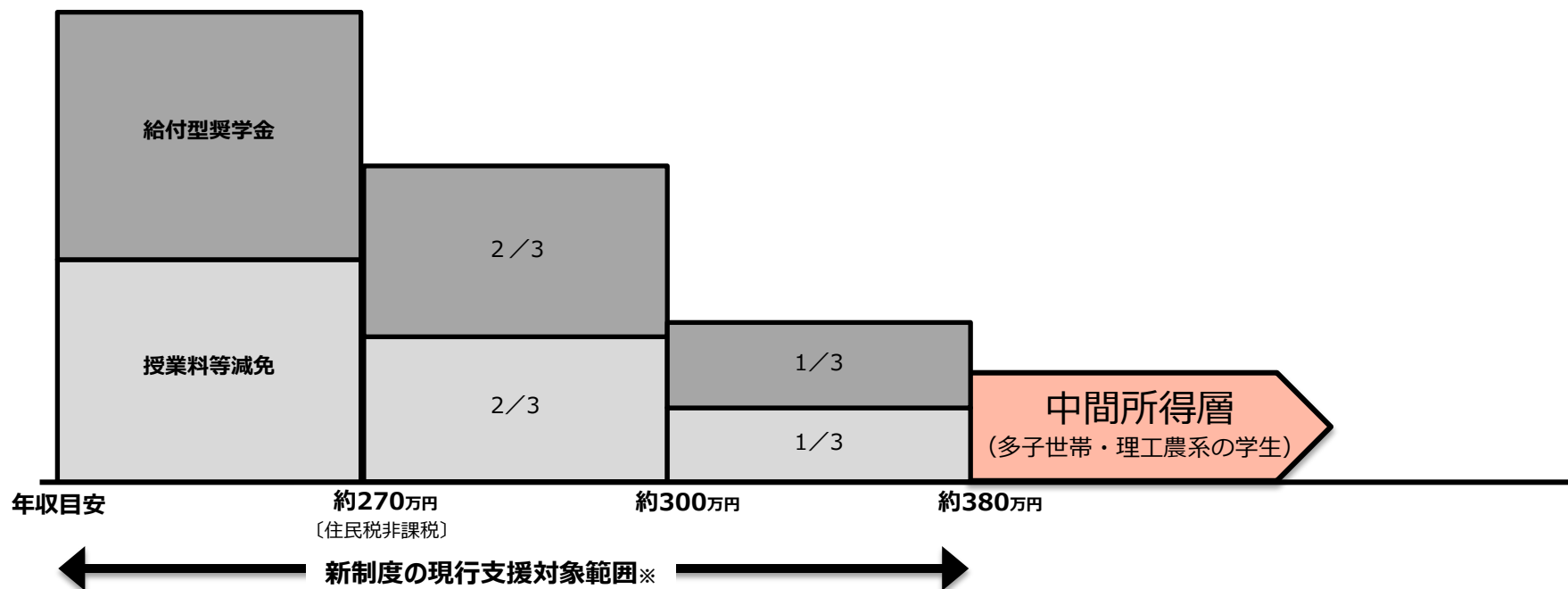


【教育未来創造会議第一次提言の記載】

①学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大

- ・ 高等教育の修学支援新制度の検証を行い、機関要件の厳格化を図りつつ、**現在対象となっていない中間所得層について、負担軽減の必要性の高い多子世帯や理工系及び農学系の学部で学ぶ学生等への支援に関し必要な改善を行う。**

中間所得層の範囲(支援拡大のイメージ)



※) 両親・本人・中学生の家族4人世帯の場合の目安。基準を満たす世帯年収は家族構成により異なる

【参考1】

- ・ 高等学校等就学支援金における私立高校等の加算の年収上限：約600万円 (両親(一方が就労), 子供2人の家族構成の場合)

【参考2】

- ・ 修学支援新制度の満額の1/4 (私大自宅外の場合) : 40.2万円 (cf. 高校就学支援金 (私立高加算含む) : 39.6万円)

【論点①】支援対象（優先順位）

〈案〉支援対象の範囲は、以下の優先順位とする。

- ① 多子世帯
- ② 理工農系の学生（私立）
- ③ 理工農系の学生（国公立）

【教育未来創造会議第一次提言 の記載】

- ①学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大
・高等教育の修学支援新制度の検証を行い、機関要件の厳格化を図りつつ、**現在対象となっていない中間所得層について、負担軽減の必要性の高い多子世帯や理工系及び農学系の学部で学ぶ学生等への支援に関し必要な改善を行う。**

【経済財政運営と改革の基本方針 2022 の記載】

新たな時代に対応する学びの支援の充実を図る。このため、恒久的な財源も念頭に置きつつ、**給付型奨学金と授業料減免を、必要性の高い多子世帯や理工農系の学生等の中間層へ拡大する。**

文系理系別・居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（大学昼間部）

区分		人文・社会科学系				理工系			
		国立	公立	私立	平均	国立	公立	私立	平均
収入	家庭からの給付	871,500	689,200	1,002,800	975,700	942,700	793,400	1,273,500	1,118,400
	奨学金	259,200	369,900	346,600	340,200	238,500	353,200	413,100	342,700
	アルバイト	340,600	392,000	405,400	399,100	322,700	336,200	361,400	345,100
	定職収入・その他	46,900	40,800	36,100	37,300	37,500	26,300	33,000	34,400
	計	1,518,200	1,491,900	1,790,900	1,752,300	1,541,400	1,509,100	2,081,000	1,840,600
支出	授業料	475,000	476,700	853,200	801,500	487,500	485,800	1,166,200	866,000
	その他の学校納付金	8,800	18,400	116,800	102,500	11,600	13,700	117,000	70,500
	修学費（教科書、実習費など）	43,100	40,100	37,600	38,200	44,500	45,600	43,700	44,100
	課外活動費	26,600	15,500	25,100	24,800	20,900	12,900	14,700	16,900
	通学費	26,000	30,200	44,400	42,100	27,200	36,800	43,400	36,800
	小計（学費）	579,500	580,900	1,077,100	1,009,100	591,700	594,800	1,385,000	1,034,300
	食費など生活費	788,200	750,700	601,500	625,200	806,700	781,200	607,500	694,100

【収入面】

人文・社会科学系よりも理工系の方が

- 国公私いずれも
 - ・家庭からの給付が多い
 - ・アルバイト収入が少ない
- 私立は、奨学金の額が多い

【支出面】

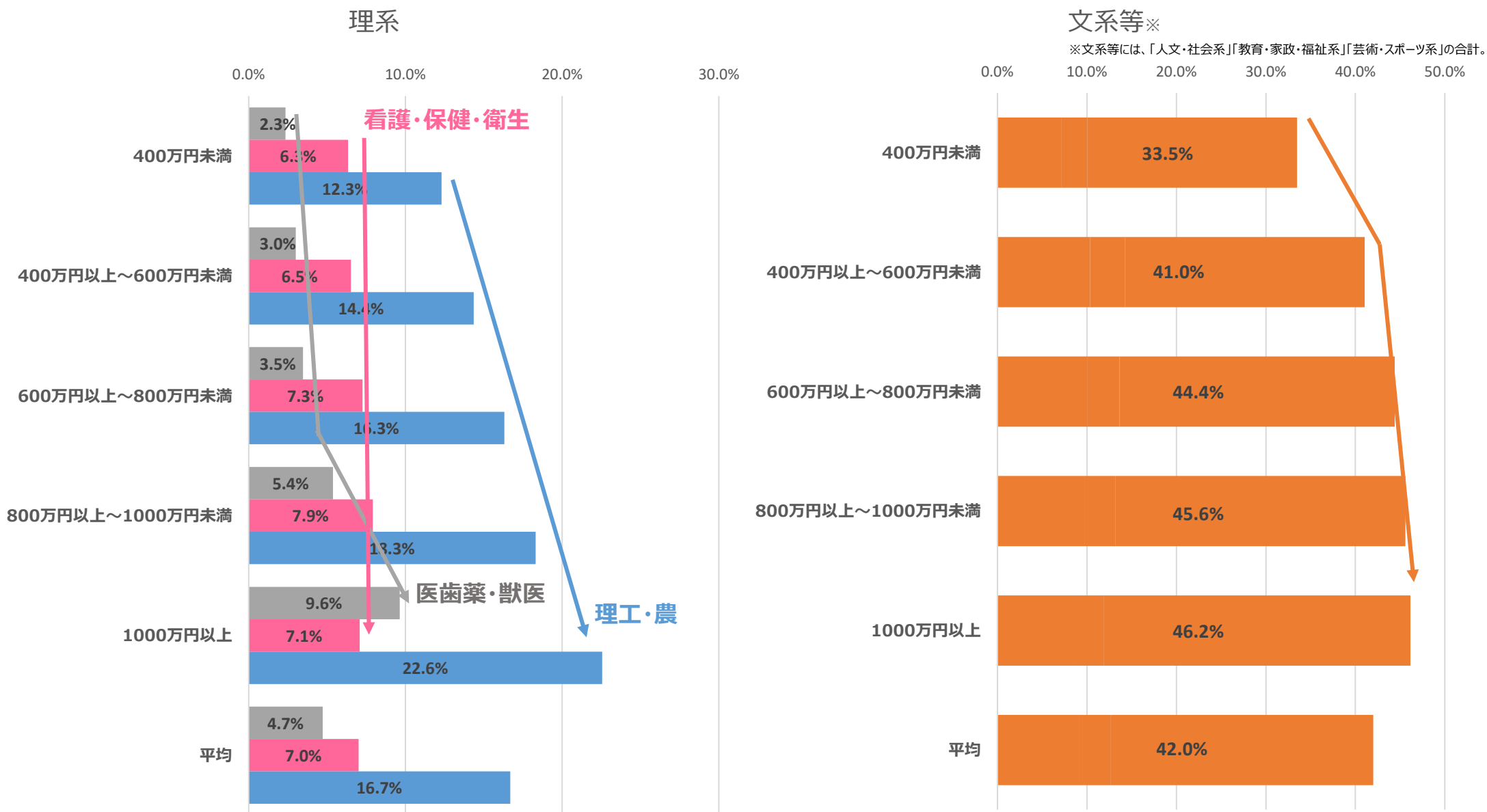
私立の場合、人文・社会科学系よりも理工系の方が、授業料が高い

注1) 人文・社会科学系には、所属に関する設問に「1.文・外国語・国際・文科学系」及び「2.法・政・経・商・社会」と回答した者を集計した

注2) 理工系には、所属に関する設問に「3.理・工学」と回答した者を集計した

（出典）令和2年度学生生活調査より再集計

世帯収入別の高校卒業後の予定進路①



注) 予定進路とは、高校3年生の12月時点での予定

(出所) 文部科学省・国立教育政策研究所「高校生の進路に関する保護者調査」(令和3年度)より作成。

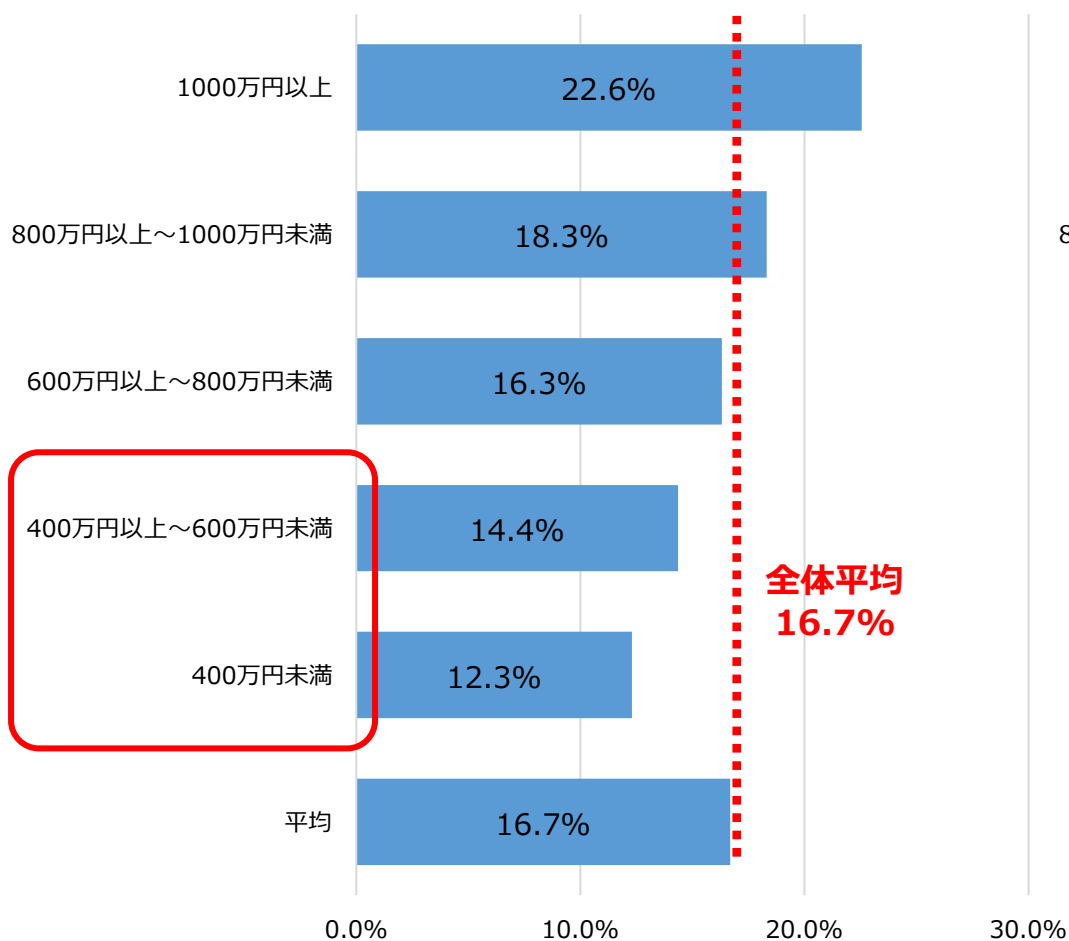
世帯収入別の高校卒業後の予定進路②

○ 収入階層ごとの理工農系進学率・文系等進学率を見ると

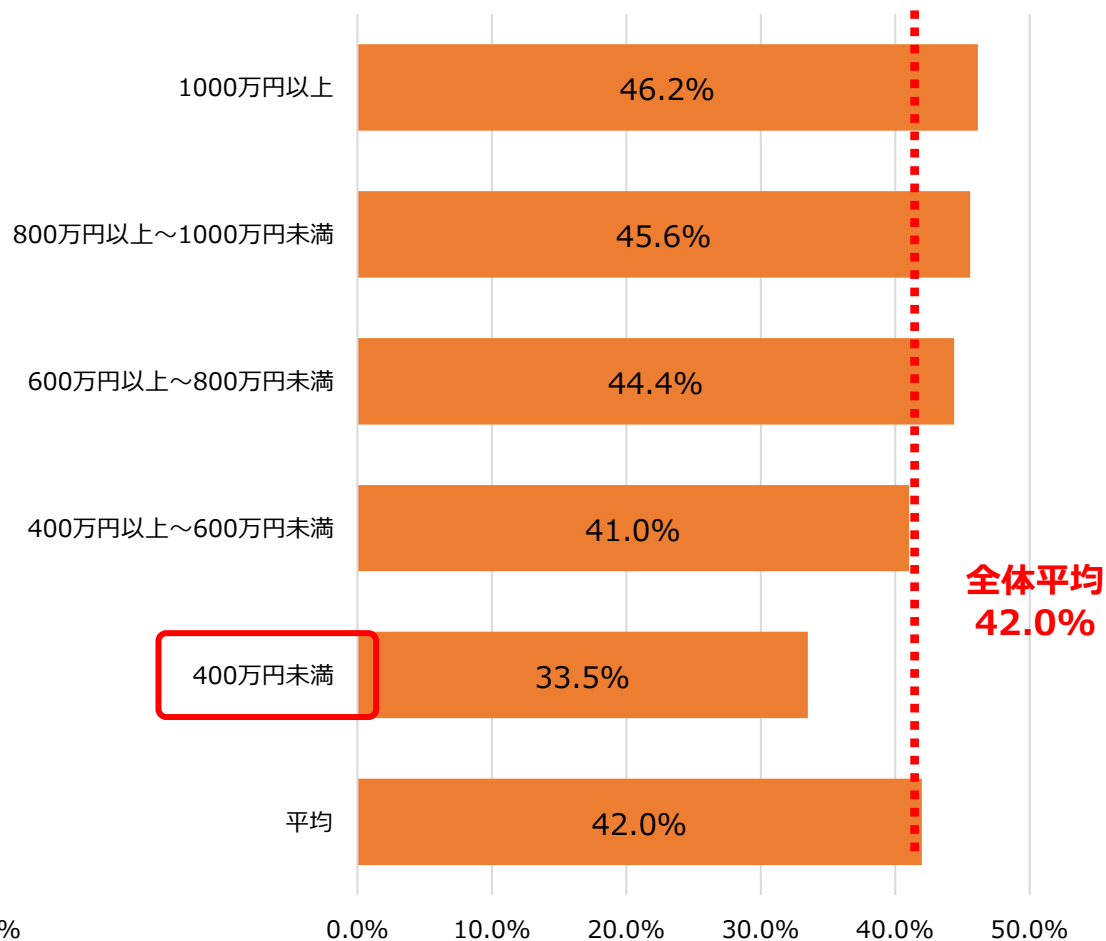
- ・ **理工農系**進学率は、**世帯収入600万円未満**の進学率が全体平均より特に低い。
- ・ **文系等**※進学率は、**世帯収入400万円未満**の進学率が全体平均より特に低い。

※文系等には、「人文・社会系」「教育・家政・福祉系」「芸術・スポーツ系」の合計。

収入階層ごとの理工農系進学率



収入階層ごとの文系等進学率



【論点②】多子世帯の定義

〈案〉 支援対象とすべき「多子世帯」とは、
「大学等に在籍する学生の世帯に、学生本人を含め「扶養される子供」が3人以上いること」

- 扶養し現に教育費用がかかっているという現時点での状況を重視。
- 扶養など一定の範囲内の子供数という考え方は、保育の2歳以下の多子支援と同様。
- 仮に扶養を外れた子供も含む場合、証明が困難。













〈適用例〉

- 大学生がいる時点で扶養される子供が3人以上いる場合はもとより、例えば、子供2人の世帯においても、新たに第3子が誕生した場合、第1子の大学進学時点で第1子の学費は支援対象となる。
- 子供が3人いたとしても、第2子や第3子の大学進学時点で、経年により第1子が扶養から外れた場合は、「扶養する子供が3人以上」という条件から外れるため対象外。

(参考) 2019年全国家計構造調査より (万円/月)

	教育費支出	収入
子供3人で長子が大学生の家計	16.8万円	66.1万円
子供2人で長子が大学生の家計	12.4万円	64.1万円

多子世帯のイメージ(の部分に3人以上いれば対象)

	基本形	①次子が大学進学した場合	②長子が就職した場合	(別パターン)4人兄弟で長子が独立している場合
社会人			 扶養されていない	 扶養されていない
大学生	 (支援対象)	 (支援対象)	 (支援対象外)	 (支援対象)
高校以下	 			 

【論点③】理工農系の特定方法

<案>

- 学部又は学科を単位とする。
- 学位の分野が「理学」「工学」「農学」の学部・学科を対象（学校基本調査の分類を活用）。
※専門学校の場合、理系分野の学科（現行設置基準で「工学」「農学」）の所属者を対象。
- 学校基本調査の分類では判断できない、学際分野については、設置認可の際の審査情報も活用し、学位の分野に「理学」「工学」「農学」が含まれていれば対象とする。

【設置認可審査資料の活用イメージ】

新設計画書の記載事項	記入欄
新設学部の名称	〇〇大学データサイエンス学部
学位の名称	学士（データサイエンス）
学位又は学科の分野	経済学関係、 工学関係

↑理学・工学・農学が含まれていれば対象

⇒ **理工・農系の要素が含まれる、学際分野の学部・学科も支援対象とする**

【参考・学校基本調査における学科分類】

大分類	中分類の例	小分類の例(学科)
人文科学	文学関係、史学関係、哲学関係 など	日本文学、美術史学、西洋哲学 など
社会科学	法学・政治学関係、商学・経済学関係、社会学関係 など	私法学、経営学、社会福祉学 など
理学	数学関係、物理学関係、化学関係 など	数理学、宇宙物理学、高分子学 など
工学	機械工学関係、電気通信工学関係、土木建築工学関係 など	生産機械工学、電子工学、交通工学 など
農学	農学関係、農芸化学関係、農業工学関係 など	園芸学、醸造学、畜産土木工学 など
保健	医学(専門課程)、歯学(専門課程)薬学関係 など	医学、歯学、薬剤学 など
商船	商船学関係	航海、機関、原子動力学 など
家政	家政学関係、食物学関係、被服学関係 など	生活学、栄養学、生活デザイン学 など
教育	教育学関係、小学校課程、中学校課程 など	学校教育学、教育心理、小学校教員養成課程 など
芸術	美術関係、デザイン関係、音楽関係 など	絵画(学)、産業美術学、音楽教育学 など
その他	教養学関係、国際関係学関係、その他 など	国際文化学、スポーツ科学、情報通信学 など